



グループ一体となり、事業活動を通じて、 豊かな社会の実現に挑戦し続けます

「100年に1度の大変革期」を 成長のチャンスに

内燃機関のエンジン車からBEV、HEV、FCV等、次世代自動車が台頭している今日、自動車業界は「100年に1度の大変革期」を迎えていると言われています。自動車の安全走行に必要な不可欠なブレーキフルードやエンジンクーラントを主力製品とする当社にとっても、大きな事業転換期であると言えます。エンジン車が電動車両(EV)に置き換わることで「クーラントもなくなるのでは?」といった声をお聞きすることがありますが、エンジンに限らずモーターやバッテリーも発生する熱を上げすぎたり下げすぎたりしない「サーマル(熱)マネジメント」が必要であることから、将来的にクーラントがなくなるとは考えていません。また、クーラントの今後の活用先として注目して

代表取締役社長/CEO

岡部 鉄也

いるのが次世代データセンターです。AIの台頭やクラウドサービス、ストリーミングサービスの利用拡大により、飛躍的に増加しているデータセンターのサーバーの冷却に、熱伝導率の高い液体の利用が期待されており、大いにビジネスチャンスがあると考えています。クーラントの活用は冷却に必要なエネルギー消費やそれに伴うCO₂排出の削減にもつながります。

自動車電動化されることで、これまで気にならなかった走行音に対する人の感覚も変化しています。当社には、住宅設備や建材の領域で培った制振技術があり、これらもまた自動車の制振に活かせると考えています。更に産業タイヤの領域においても、半導体製造施設等で摩擦抵抗が少なく、少ない電力で動かすことのできるタイヤのニーズが高まっています。こうした時代の変化やニーズを取り込んだ、付加価値のある製品開発に積極的に取り組んでいきます。

2023年の日本ケミカル工業株式会社に続き、2024年に株式会社ユーエスシーをグループに迎え入れました。同社は石油・化学製品のメーカーであり、かつ輸入商社としての機能も兼ね備え、全国に30カ所以上の営業拠点を有しています。同社がグループに加わったことで、当社の提案力や開発力、販売力が格段に飛躍することが期待できます。今後は、それぞれの企業が培ってきた事業やモノづくりに対する強みを学び合い、販売網の活用等

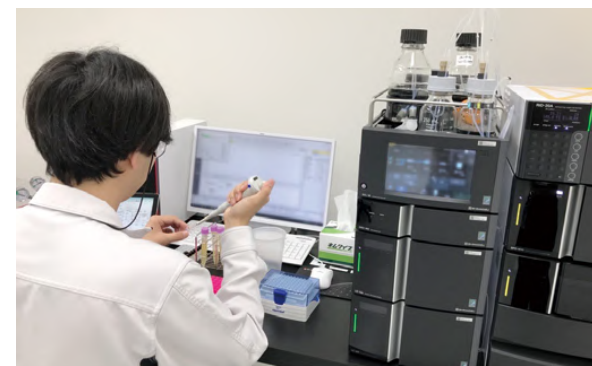
を通じてお互いのシナジーを高め、事業面での共創に取り組みたいと考えています。我々の強みを一層高めることで、今後もお取引先の皆様の競争力強化に貢献することをめざしてまいります。

持続的な成長を実現するための 布石を打ち続ける

当社では事業における社会的・経済的価値の向上をめざすと同時に、サステナビリティ経営を推進しています。その一環として、カーケミカルの製造工場からスマートファクトリー化への取り組みを進めており、産業タイヤ等、他の事業領域にも順次拡大する予定です。

スマートファクトリー化においては基幹業務システム(ERP)の刷新により、経営資源の有効活用をめざしています。生産性の向上や作業の負荷軽減はもちろんですが、今後、グローバルレベルで品質基準を統一していく方針です。法令や規制等、国・地域で異なる点がありますが、生産状況の可視化や、作業の属人化の解消等を通じて、世界共通の品質基準の確立を推進します。

この度、消費者向けカーケア用品事業からの撤退を決定しました。これは車に対する価値観の変容や将来的なシェアリングエコノミーの市場規模拡大を見越して、B



環境配慮型製品に向けた研究開発

to Bビジネスを強化していくべきタイミングだと判断しました。カーケア用品事業で培った製品技術は、今後自動車ディーラー・専門店向けにプロ用製品として強化していく計画です。当社の持つ技術力を活かせるよう、マーケティングにも取り組み、グループとして迎えた企業の販売力も活用します。当社の持つリソースを最大限に生かし、新たな成長分野への投資を積極的に行ってまいります。

製品開発においては、創業以来、研究開発型メーカーとして歩んでまいりました。特にR&Dにおいては、経営資源を十二分に投下していると自負しています。特に石油に依存しない、環境に配慮したバイオ由来の製品開発は、今日のような環境対策がクローズアップされる以前から取り組みを進めています。鉱油を分解する微生物の研究を加速させており、この技術が製品化すれば、海上の

原油流出事故等において、物理的に浄化しづらかった場所の浄化が実現する他、土壌改良への活用も期待できます。また切削油にも利用できるため、各種の金属加工業においても環境負荷の低減が期待できます。安全性が高く、環境負荷を抑制できる技術の開発、更に実用化に向けて今後も引き続き注力してまいります。

基準遵守の徹底と管理体制の再構築を実施

近年、自動車業界では品質不正等の問題があり、自動車業界に深く携わる当社においても、人命に関わる製品を供給している責任を改めて認識し、同時に当社でも問題



スマートファクトリー化の進展により生産工程の見える化、効率化とともに高品質な製品の安定供給を実現

が起こらないとは限らないとの危機感を持ちました。そこで2024年度、スマートファクトリー化の推進に合わせて、社内における作業工程を再点検いたしました。これにより各工程における作業手順の有無はもちろんのこと、規格やお客様の品質要求に応じて、工程に組み込まれた検査項目も詳細に確認しました。守られるべき品質管理ポイントや、ガバナンスの観点からも改めて精査し、従業員全員がその重要性を理解できるような仕組みづくりを行っています。また従業員が安全に作業できているのか、事故を起こさないための工程も点検しています。各工程における潜在的な危険を洗い出し、安全対策についても、手順やルールを見直しました。1年をかけ、法令をチェックする仕組みを整備できたと考えていますが、作業工程の見直しや品質管理は、一度取り組んで終わりというものではありません。技術の進化や社会情勢の変化に伴い、新たな課題やリスクが生まれる可能性もあるため、今後も定期的に点検を行い、必要に応じてブラッシュアップを継続していきます。

意識改革、行動変容を実行。 未来に向けたビジョンを創り上げていく

2025年は、昨年度からの取り組みを更に深化させ、生産現場の安全対策を重要課題として位置付けています。お客様の求める品質を守ることは我々の使命であり、生産性向上に向けて効率的に作業することは、企業の成長において不可欠です。しかしこれらの目標も、従業員の安全の上に達成されるべきものであり、工場は定められた規則を遵守していれば事故を未然に防げるはずで、そこで今年は基本に立ち返り、2024年に見直した作業手順を徹底的に実行します。従業員一人ひとりの意識を高めることで、





グループ各社のメンバーによるディスカッション

管理体制も含めた安全第一の徹底をめざします。

重要施策として「目的の共有化」も進めています。これは組織やチームが共通の目標に向かって協力するためには、本質的な目的を全員が理解し共有することが重要であることを、従業員一人ひとりに業務の中で理解、浸透させる取り組みです。先ほどもお伝えした通り日本ケミカル工業株式会社に続き、株式会社ユーエスシーを当社グループに迎えました。バックグラウンドや風土が異なる企業が一つになったことで、私たちは今一度、どのような未来を描いていくのか、我々のあるべき姿とはどのようなものなのか、方向性を共有しておく必要があります。

また10年後、20年後の当社のあるべき姿について、グループの次代を担う若い世代の方にも考えてほしいと考えています。現在進行中の「グループビジョン策定プロジェクト」は、そうした思いで立ち上げました。これからグループとしてどう成長するのか、そのための指針を作成している段階です。グループビジョンそのものは2025年度中の完成をめざしており、新たにグループとして加わった方たちと一体となって取り組みたいと考えています。

地域社会への貢献は 企業としての重要な施策

現在、国内6社、海外9カ国に14社を擁するグループとして、ブレーキフルードは15%、エンジンクーラントにおいては25%の世界シェアを誇るグローバル企業となりましたが、このような成長を遂げることができたのは、創業以来75年にわたり、岐阜という地に根差し、地域社会に支えられてきたお陰だと考えています。そのような思いから、当社は地域社会への貢献活動を重要な施策と位置付け、さまざまな活動を展開しています。

その一つであるスポーツの活動支援においては、岐阜県スキー連盟のフリースタイル部への協賛を継続的に実施し、選手育成や競技発展に寄与しています。また次世代を担う子どもたちの育成支援にも力を入れており「シーシーアイカップ岐阜県U-9(サッカー)」を2024年も開催しました。また2024年は新たに、企業版ふるさと納税を通じてユネ



シーシーアイカップ
岐阜県U-9を開催

スコ世界文化遺産「合掌造り集落」を有している岐阜県大野郡白川村の地域活性化や、持続可能な発展のための寄付を行いました。今後も、地域社会への貢献活動を継続し、持続可能な未来を地域と共創していきたいと考えます。

どんなに世の中が進化しても、 人中心の企業でありたい

AIが発達し、自動車の世界でも自動運転技術が進化する等、新しい技術が私たちの社会に大きな変革をもたらしています。一方で飛躍的な技術の発展は、人の役割や存在意義を問い直す機会にもなっています。

このような時代だからこそ、私たちは今後も、「人中心のモノづくり、工場づくり」を大切にしたいと考えています。テクノロジーがどのように進化しても、その中心には常に「人」が存在すべきです。今後もシーシーアイグループは、従業員一人ひとりの人間性を尊重し、お客様や社会とのつながりを大切にする企業文化を醸成していきたいと考えています。また、新たにグループに迎えた企業と共創することで、我々の可能性を最大限に発揮できる環境を整えたいと思います。多様な価値観や経験を持つ人々が互いに尊重し、協力し合うことで、今後も、地球環境に配慮した製品開発に取り組み、豊かな社会の実現をめざしていきます。